

令和2年度 帰国児童編入学志願者募集について

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校

1 志願にあたって(附属小学校の特殊性について)

本校では小学校としての通常の教育を行いますが、その他に次のような特殊性をもちますので、この趣旨をよくご理解のうえ、児童を志願させてください。

- (1) 教育の理論と実践に関する研究とその検証のためカリキュラムを弾力的に運用する。
- (2) 本学教育学部の教育実習生が児童の教育に参加するなど多数の指導者が授業を行う。
- (3) 学区が広く、生活地域から離れた場所に位置し、バス、電車等を使い時間をかけて通学する場が多い。
- (4) 帰国児童を学年で4~6年生15名(1学級5名ずつ)受け入れるので1学級総数が最大40名となり、公立小学校と比較して1学級あたりの人数が多い。

2 指導目標

帰国児童に対して、海外在留によって生じた未学習内容を補充するとともに、基本的な生活習慣・行動様式等の適応を図りつつ、個性の伸長を促すことを目的とする。

- (1) 学校生活を中心として、生活適応の促進を図る。
- (2) 海外での教育課程の違い等に伴う未学習内容を補充する。
- (3) 児童同士の交流を図り、相互に向上を目指す態度を育てる。
- (4) 日本語の知識、能力の不足を補充する。

3 指導方針

- (1) 帰国児童を普通学級に編入し、特別学級は編成しない。
- (2) 未学習内容を補充するため、国語科を中心に少人数グループでの学習指導を行う。
- (3) 必要に応じて教育相談の機会もち、個人差に応じた適応指導を行う。
- (4) 児童の海外における経験を生かし、一般児童とともに国際理解の促進を図る。
- (5) 全教員による連携指導を行う。

4 受け入れについて

※海外において日本の教育課程を受けていない児童に対して、日本の教育にソフトランディングさせること(適応指導)を主眼としています。よって、英語力の保持等の指導は一切行いません。

※本校では、研究の一環として帰国児童を受け入れています。これは研究成果を文部科学省に報告し、公立学校に還元させていくものです。よって、とくに通訳などの配置はありません。

※調査の結果、公立小学校で十分適応できると判断した場合や、本校の特殊性を鑑み、公立小学校の方が適切に適応できると判断した場合、定員に達していなくても受け入れをお断りする場合があります。

5 応募資格

- (1) 4年生=2010年(平成22年)4月2日から2011年(平成23年)4月1日までに日本で生まれた者
- (2) 5年生=2009年(平成21年)4月2日から2010年(平成22年)4月1日までに日本で生まれた者
- (3) 保護者の勤務地の移動に伴い帰国し、**その保護者と同居している者**
- (4) 在外生活経験年数2か年以上で、出願日からさかのぼって1年以内に帰国している者
- (5) 神奈川県在住で、通学に要する時間が**片道1時間以内(山手駅から本校までの所要時間7分を含む)**の者

6 募集人員・出願手続き・編入学調査等

今年度は、定時募集(8月、3月)と随時募集を行う予定です。それぞれの募集が近づきましたら、募集要項をホームページに掲載いたします。